

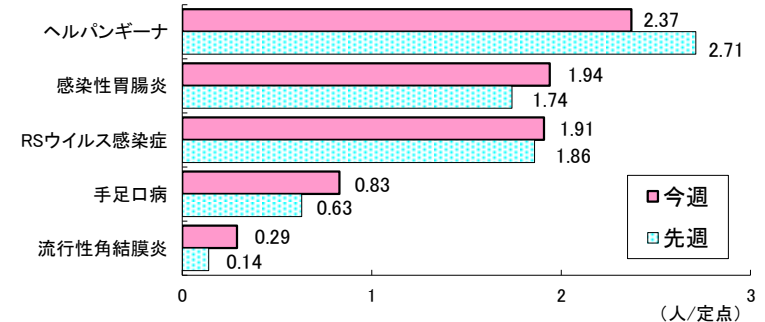


【第36週の発生動向】

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

- ヘルパンギーナは、県全体で13%減少しています。保健所別では、秋田市、横手で増加、秋田中央、大仙で同規模、大館、北秋田、能代、由利本荘、湯沢で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で11%増加しています。保健所別では、大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、横手、湯沢で増加、秋田市、大仙で減少しています。
- RSウイルス感染症は、県全体で3%増加しています。保健所別では、由利本荘、大仙、横手、湯沢で増加、秋田市、大館、北秋田、能代、秋田中央で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

＜五類定点対象疾患(週報)＞

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢			
	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減				
RSウイルス感染症	1.86	1.91	↗	5.29	4.00	↘	0.75	0.25	↘	0.50		↘	0.67	0.33	↘	0.25		↘		0.25	↗	1.25	1.75	↗	3.33	5.00	↗	1.50	3.50	↗	
インフルエンザ																															
咽頭結膜熱	0.17	0.17		0.14		↘		0.25	↗	0.50		↘				0.75	0.50	↘	0.25	0.50	↗								0.25	↗	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	0.26	↘	0.86	0.86		0.50		↘	0.50		↘	0.33		↘	0.25	0.25										1.50	0.50	↘		
感染性胃腸炎	1.74	1.94	↗	2.57	1.57	↘	1.50	2.50	↗	1.00	1.50	↗	5.33	5.67	↗	1.25	1.50	↗	1.75	2.75	↗	0.25		↘		0.67	↗	1.50	2.00	↗	
水痘	0.14	0.03	↘	0.43	0.14	↘	0.25		↘							0.25		↘													
手足口病	0.63	0.83	↗	1.14	1.14		0.75		↘					0.33	↗	1.00	2.75	↗	0.25	1.25	↗	1.25	1.00	↘	0.33		↘				
伝染性紅斑																															
突発性発しん	0.26	0.20	↘	0.29	0.29		0.75	0.25	↘	0.50	0.50								0.25	0.25		0.50	0.25	↘					0.25	↗	
ヘルパンギーナ	2.71	2.37	↘	1.00	1.14	↗	3.25	2.00	↘	8.00	6.00	↘	5.67	5.33	↘	1.00	1.00		1.75	1.25	↘	0.25	0.25		2.67	3.67	↗	5.50	4.50	↘	
流行性耳下腺炎		0.06	↗											0.33	↗								0.25	↗							
川崎病		0.06	↗																	0.25	↗				0.33	↗					
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*			
流行性角結膜炎	0.14	0.29	↗	0.33	0.67	↗				*	*		*	*		*	*										*	*			
細菌性髄膜炎																*	*														
無菌性髄膜炎																*	*														
マイコプラズマ肺炎	2.38	2.00	↘	2.00	3.00	↗				6.00	4.00	↘	1.00		↘	*	*					2.00	2.00		5.00	2.00	↘	3.00	5.00	↗	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*														

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
 「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、報告されました。
- ・三類感染症の細菌性赤痢が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の梅毒が秋田市保健所管内から1人、百日咳が横手保健所管内から1人、風しんが横手保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-35週		36週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンコ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	14310	87	2
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	111		1
	腸管出血性大腸菌感染症	2681	23	
	腸チフス	22		
	パラチフス	14		
四類	E型肝炎	291	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	706		
	エキノコックス症	8		
	黄熱			
	オウム病	5		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	5		
	キャサヌル森林病			
	Q熱	3		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	58		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
ダニ媒介脳炎	1			
炭疽				

(人)

類型	疾患名	1週-35週		36週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	97	4	
	デング熱	109		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	163		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	3		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	2		
	マラリア	33		
	野兔病			
	ライム病	7		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽	2			
レジオネラ症	1261	2		
レプトスピラ症	5			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	560	1	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	152	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1298	8	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	29		
	急性脳炎	488	6	
	クリプトスポリジウム症	11		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	141	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	485	5	
	後天性免疫不全症候群	870		
	ジアルジア症	52	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	330	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	25		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2327	12	
	水痘(入院例に限る)	291	5	
	先天性風しん症候群			
	梅毒	4523	7	1
	播種性クリプトコックス症	126	1	
破傷風	77			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	50			
百日咳	5568	24	1	
風しん	362		1	
麻しん	203			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	14			

トピック

<細菌性赤痢について>

第36週、県内の医療機関から海外渡航歴のある細菌性赤痢の患者報告がありました。本県では4年ぶりですが、全国では例年100人以上の患者報告があります(表)。細菌性赤痢は世界各地で患者報告のある感染症ですが、特に報告の多い国(インド、インドネシア、中国等)へ旅行する際は、注意が必要です。

■細菌性赤痢とは

原因となる赤痢菌には、A群(志賀赤痢菌)、B群(フレキシネル菌)、C群(ボイド菌)、D群(ソネ菌)の4種があります。これらに汚染された生水、氷、生ものの食品などを介して感染します。

■症状

1~5日(大多数は3日以内)の潜伏期間の後、下痢、発熱、腹痛などが起こります。菌の種類によって症状の程度に差があり、最も病原性の強いA群(志賀赤痢菌)では、腸内からの出血による血便やしぶり腹(トイレにいった後でもすっきりせず、またトイレに行きたくなくなる状態)といった典型的な症状がみられます。一方、他の3種の赤痢菌では血便はほとんどありません。特にD群(ソネ菌)は症状が軽く、軟便や軽度の発熱で経過することが多いとされます。

■予防対策

- ・上下水道の整備が不十分など、衛生状態の悪い国に旅行する際は、生水、氷、生ものの飲食を避け、トイレの使用後及び食事には手をしっかり洗うことが重要です。
- ・帰国後に腹痛・下痢等の症状が現れた場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

表 細菌性赤痢の患者報告数

年(平成)	25年	26年	27年	28年	29年	30年
全国	143	158	156	121	141	107
秋田県	1	1	0	0	0	1

* 全国は35週、秋田県は36週現在

感染症の集団発生報告

RSウイルス感染症による集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年9月6日
 受付保健所 湯沢保健所
 施設名称 にしもないこども園
 有症者数 園児207名のうち10名
 把握期間 8月31日から9月6日まで
 症状 咳、発熱、喘鳴

かぜ様症状の集団発生報告が2件ありました。

発生届出日 平成30年9月3日
 受付保健所 秋田中央保健所
 施設名称 出戸こども園
 有症者数 園児162名のうち31名
 把握期間 8月27日から9月3日まで
 症状 発熱

発生届出日 平成30年9月5日
 受付保健所 北秋田保健所
 施設名称 指定障害者支援施設愛生園
 有症者数 利用者210名のうち24名
 把握期間 8月30日から9月5日まで
 症状 咳、発熱、痰



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
ヘルパンギーナ	-	北秋田(6.00)、能代(5.33)

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大湯村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		